

研 究 紀 要

第 30 号

昭和 63 年 3 月

島根大学教育学部附属中学校

目 次

序 文	小林 昭 三	1
研究論文		
数学科		
連立方程式の指導についての一考察	奥 村 泰 磨	3
英語科		
Dictation に関する一考察	平 野 謙 治	9
性教育		
本校性教育の実情	性教育委員会 藤田喜久子・平野謙治	17
海外研修報告		
Deutsches Turnfest に参加して	宮 本 夏 子	27
昭和62年度 国立大学・学部附属学校等教官	川 津 啓 義	39
海外教育事情視察に参加して		
— 主視察国（アメリカ・イタリア・西ドイツ） —		
作 品		
「アトリエの客」・「アトリエでの休息」	桑 本 京 子	65
「忍」	川 津 啓 義	66
昭和62年度本校ならびに本校教官の研究活動	研 究 部	67

序 文

どんな職場にあっても、その道のプロとしてのきびしさが求められるのは当然のことである。教師にあっても例外ではない。教育技術の上手、下手の問題もさることながら、教師にとって自己の専門分野における研究が如何に大切か、あらためて申すまでもない。だが、このように考えると、なんとなく重圧感が伴い、責任の重さに耐えきれない気持にもなる。できることなら、責任感や義務感からでなく、自ら研究することに“よろこび”を見出し、“生き甲斐”を感じようになりたいものだとつくづく思う。その方が研究も進み、質的にも優れたものになると信ずるからである。

一つの研究論文を完成し、発表することは容易なことではない。自分の論文に責任を持たねばならぬことや、作成にあたって自力の限界に挑戦せねばならないことなどを考えると、世に送り出すのがついおっくうになったりする。幾度となく推敲を重ね、一応完成した作品でも、提出期限まで手を入れる作業が続きなかなか決定稿にはならない。そして、作品を手離れたあとも、不満な個所を発見するがどうすることもできない。誰もが経験することだが、これが生みの苦しみである。テーマを設定してから完成するまで、否そのあとまでも思考が重ねられていく。そのことが、その後の研究活動に生かされ、自己の力を高めていることはまちがいあるまい。たとえ不満があっても、その時々最善をつくしたことから、あまりそのことに思い煩わないようにしたいものだ。

先日、親友（作曲家）から出版した作品集がとどいた。年とともに、完成度の高い作品を発表する彼の仕事ぶりに敬服している。上京した時は、都合のつく限り彼をたずね、会うことを楽しみにしている。作曲に関する技法のことや、作曲界の動向など話合うことは、私にとって得るものが多く、楽しいひと時でもある。もう10年も前のこと、出版した作品集を前もって送り、出張のついでに彼をたずねた。個々の曲について、彼の卒直で忌憚のない意見がありがたい。なくて七癖、全く気づかなかった私の癖を指摘されておどろいた。彼の分析力は見事である。癖と個性は紙一重、癖といえば欠点、個性があるといえば長所を意味するのであろうか。受け手によって微妙な差異が生ずるのかもしれない。個性があってもオリジナリティがなければ、高い評価は得られない。同時に論旨が通っていて、説得力をもつものでなければならぬ。作曲の場合も同様である。どんなに技術があっても、それだけでは人の心に感動を与えることはできない。彼との話はつづく。彼と作風を異にするU氏の作品を私が称賛したとき、彼は急に怒り出した。U氏の作品もよく演奏されており、数多くの作品を生み出している。二人は創作に対する考え・作曲手法など大きくちがっている。それから夜を徹して議論したことを懐しく思い出す。私は二人の作曲家が好きであることに変わりはない。

ここに収録された3篇は、いずれも教育現場において具体的・実践的に問題点をひき出し、論述した貴重な研究論文である。さらに、海外研修・海外教育事情視察の2篇の報告も掲載する。直接体験により、はかり知れないほど多くの収穫が得られたことがよみとれる。これらはすべて今後の教育活動のための大きな財産となり、さらに発展していくことが期待される。

おわりに皆様の暖かいご指導と、きびしいご批評を心からねがうものである。

島根大学教育学部附属中学校

校長 小林 昭 三

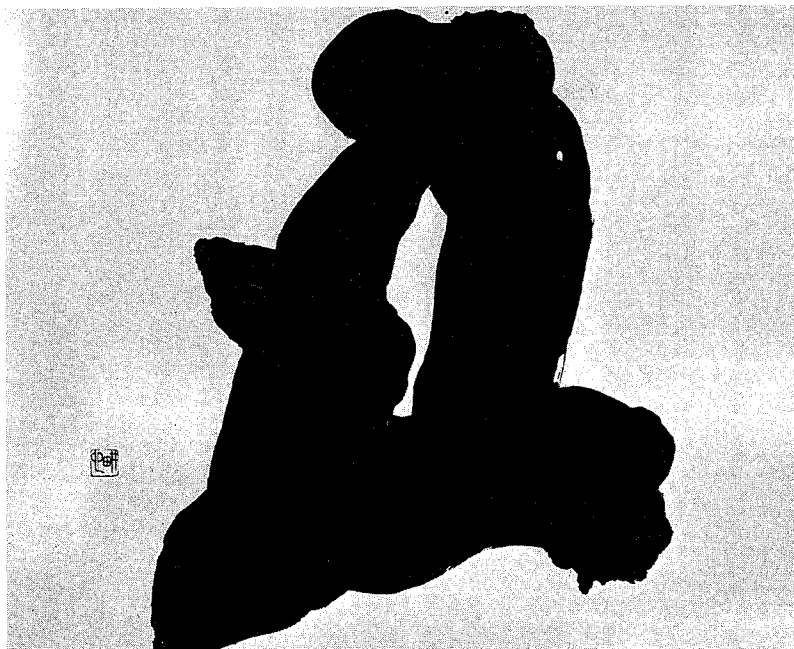


「アトリエの客」(S 100)



「アトリエでの休息」(S 100)

第55回 独立展 入選作 桑本京子 (独立美術協会会友)



「忍」

第 11 回島根県教職員美術展出品作品 川 津 啓 義

昭和62年度本校ならびに本校教官の研究活動

研 究 部

I 共同研究

創立40周年記念出版物の刊行

- (1) 書 名 「自ら学ぶ力を育てる学習指導」
- (2) 監 修 大阪教育大学 北尾倫彦教授
- (3) 発行日 昭和63年3月5日
- (4) 発行所 東洋館出版社
- (5) 内 容

第1章 「自ら学ぶ力」を育てる研究の基本構想
§1 「自ら学ぶ力」
§2 本校における研究の構想
§3 本校における研究の具体的な取り組み
第2章 教科における「自ら学ぶ力」の育成
§1 課題選択または体験による学習指導
社会科- 「自ら学ぶ力」を育成する「報告書づくり」の指導
数学科- 効果的な「体験のくさび」を取り入れた数・式の学習指導
理科- 自分で追求する力を育てる「物質とイオン」の学習指導
技術家庭科(家庭系列) - 自由献立を取り入れた調理学習
§2 自己評価を生かした学習指導
保健体育科- 自らをコーチする選択制の学習指導
技術家庭科(技術系列) - 自己評価しながら主体的に進める学習指導
§3 プロセスを重視した学習指導
国語科- 聞く力の育成を目指した学習指導
養護学級- 「学ぶ力」を育てる「附中食堂」の開業
§4 自己表現の場を生かした学習指導
音楽科- 自らの意志による発散を促す自己表現の学習
美術科- 「自己表現力を育てる授業の構成」- 石彫学習をとおして-
英語科- 「より豊かな表現力を育てる学習指導」
第3章 領域(道徳・特活)における「自ら学ぶ力」の育成
§1 道 徳- 主体的な価値追求を目指す道徳指導
§2 特 活- 主体的に問題解決していく力を高める特活指導
第4章 研究のまとめと反省
§1 研究の成果とそのたしかめ
§2 今後の課題

Ⅱ 個人研究

1. 研究発表(口頭)

- 加田 紀機 ◦ 「特殊学級の進路指導」 育成会全国大会
(於 米子市) S 62. 9. 11
- 加田 紀機 ◦ 「指導に生きるカルテづくり」 障害児教育を語る会
三島 修治 (於 附属小学校) S 63. 2. 9
- 田中 義浩 ◦ 「現場における音楽実技教育」 音楽実技講習会
(於 山口市婦人教育文化会館) S 62. 7. 27
- 「中学生のための合唱指導」 合唱指導者講習会
(於 広島市立高取北中学校) S 62. 7. 21
- 「小・中音楽教科書の教材指導」 歌唱指導講習会
(於 西郷南中学校) S 62. 12. 1
- 河西 尚子 ◦ 「英語教育の現場」 英語研究室研修会
(於 島根大学) S 62. 11. 29
- 浜田 裕三 ◦ 「自己学習能力を育成する追求型の授業 - 中学1年「植物の生活」を通して -」
日本理科教育学会中国支部大会 (於 島根大学) S 62. 8. 9
- 三島 修治 ◦ 「社会性に重点をおいた指導」 障害児教育を語る会
(於 附属小学校) S 63. 2. 9
- 藤田喜久子 ◦ 「心身の健康状態を知り積極的に健康増進のできる生徒を育てる指導のあり方」
日本教育大学協会養護教諭部門全国大会 (於 富山市) S 62. 8. 6

2. 掲載論文

- 田中 義浩 ◦ 「合唱部の選曲 自発性を高めるレパートリーづくり」
教育音楽中・高版 (音楽之友社) S 62. 6. 1
- 「感動・喜びを知る合唱授業」
教育音楽小・中・高版別冊「授業の合唱」 (音楽之友社) S 62. 11. 30
- 山崎 裕二 ◦ 「近世初頭の杵築大社領について」
大社町史研究紀要2号 (大社町教育委員会) S 62. 4. 30
- 「テーマ性のある内容構成と生活文化の重視を」
社会科教育No.303 (明治図書) S 62. 10
- 藤村 昇 ◦ 「学びとる力をつけるためのサッカー学習のあり方について」
学校体育 (日本体育社) S 62. 6
- 岩田 靖 ◦ 「地域の問題を軸にした『身近な地域・松江』の学習」
島根地理学会40周年記念誌 (島根地理学会) S 62. 12

3. 著 書

- 山崎 裕二 ◦ 「中学校・社会科課題学習の新展開」
平田嘉三・星村平和・溝上 泰編 （三晃書房） S 62. 7. 5

4. 作 品

- 川津 啓義 ◦ 「耐」 島根県書道協会展 （島根県民会館） S 62. 9
◦ 「忍」 第11回島根県教職員美術展 （浜田市民会館） S 63. 2
- 桑本 京子 ◦ 「アトリエの客」 S 100号 第55回独立展 （東京都美術館） S 62. 10
◦ 「女二人」 F 130号 「アトリエの女」 S 100号
第16回独立美術山陰グループ展 （鳥取県立博物館） S 62. 6
◦ 「ある日 II」 S 100号 島根洋画展 （島根県立博物館） S 62. 6
◦ 「麻衣」 F 50号 第20回総合美術展 （島根県立博物館） S 62. 11